

# 枚方市商工だより

(2013年1月)

[主な内容]

地域経済動向調査VOL-93 (2012年10~12月)

枚方市

【調査の概要】

本調査は、枚方市の委託事業として北大阪商工会議所が実施しているもので、地域経済の総合的な動向を把握することで、産業振興のための基礎資料として利用するとともに、地域の経営者等へ情報提供している。

調査対象は、製造業、建設業、卸売業、小売業、飲食業、サービス業の6業種で、市内の主要な産業を網羅している。

企業規模は、製造業は全数を、その他の業種は、従業者規模5人以上の事業所から無作為抽出している。

調査方法は、往復はがきによるアンケート方式で、2013年1月上旬に887社に発送し、回答期限までに210社から回答が得られた。

全体の回答率は23.7%で、業種別・規模別回答状況は、表1、表2の通りである。

表1. 業種別回答状況

	集約業種名	母集団	回答数	回答率
製造業	食料・飲料	21	4	19.0
	繊維・衣服	54	8	14.8
	木材・家具	16	2	12.5
	紙・出版・印刷	31	8	25.8
	化学・プラスチック	52	17	32.7
	鉄鋼・非鉄金属	27	10	37.0
	金属製品	58	15	25.9
	一般機械	63	12	19.0
	電気機械	33	8	24.2
	その他の製造業	35	11	31.4
	製造業計	390	95	24.4
非製造業	建設業	98	37	37.8
	卸売業	55	12	21.8
	小売業	167	27	16.2
	飲食店	62	8	12.9
	サービス業	115	31	27.0
		非製造業計	497	115
	合計	887	210	23.7

表2. 規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率
1～3人	81	13	16.0	—	—	—	86	12	14.0
4～9人*	87	24	27.6	237	47	19.8	324	71	21.9
10～19人	70	22	31.4	135	35	25.9	205	57	27.8
20～29人	26	6	23.1	55	13	23.6	81	19	23.5
30～49人	38	8	21.1	36	8	22.2	74	16	21.6
50～99人	34	5	14.7	19	6	31.6	53	11	20.8
100～199人	35	10	28.6	11	5	45.5	46	15	32.6
200～299人	6	0	0.0	3	1	33.3	9	1	11.1
300人以上	13	7	53.8	1	0	0.0	14	7	50.0
合計	390	95	24.4	497	115	23.1	887	210	23.7

\*) 非製造業の規模4～9人は5～9人である。

## 【概要】

国内の景気は、一部に弱さが残るものの、下げ止まっている。個人消費は、底堅く推移している。

先行きについては、当面は一部に弱さが残るものの、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景に、景気回復へ向かうことが期待される。しかし、海外景気の下振れが、国内の景気を下押しするリスクとなっている。また、雇用・所得環境の先行き等にも注意が必要である。

政府は2月の月例経済報告で、景気の基調判断を前月の「弱い動きとなっているが、一部に下げ止まりの兆しもみられる」から「一部に弱さが残るものの、下げ止まっている」と変更した。企業の業況判断については、「改善の動きがみられる」としている。物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

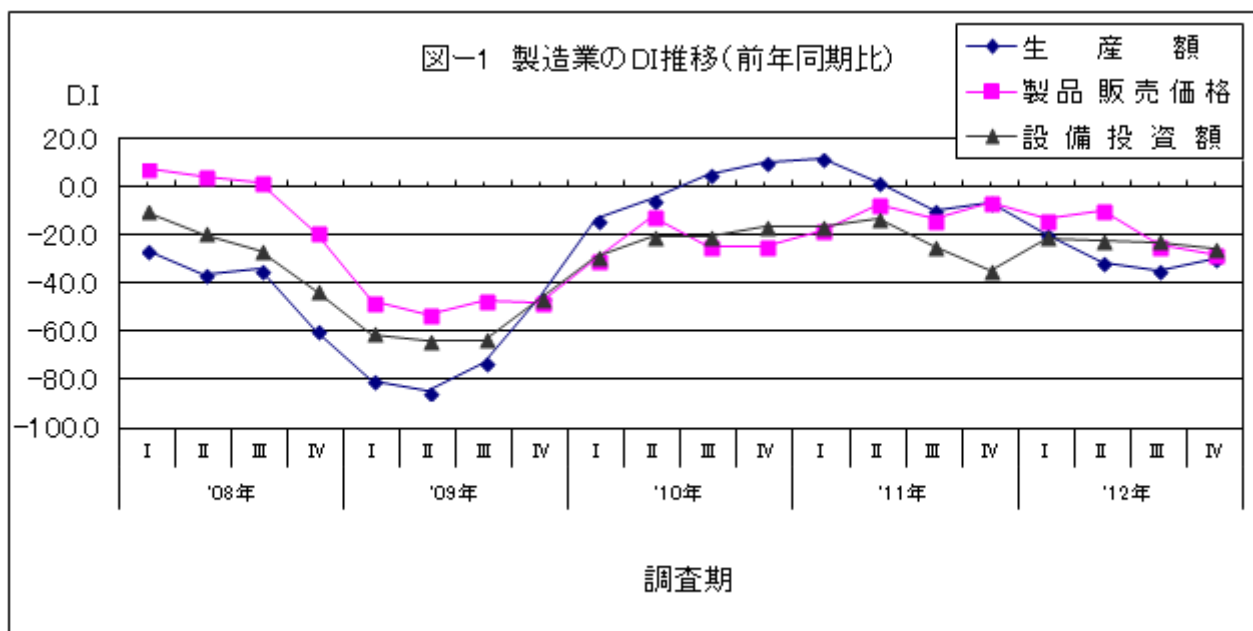
総務省が労働力調査において発表した平成25年1月の完全失業率（季節調整値）は、4.2%で、前月に比べ0.1P低下した。また、厚生労働省の発表した1月の有効求人倍率は0.85倍で、前月に比べ0.02P上昇した。

帝国データバンクによると、平成25年1月の倒産件数は854件で、前月比では3.6%の増加となったものの、前年同月比では10.2%の減少となり、3ヵ月連続で前年同月を下回った。復興需要や設備投資の増加などで、建設業の倒産件数が減少したことが背景にある。倒産件数のうち、不況型の倒産は686件である。構成比は80.3%で、前月と比べると4.0P、前年同月比でも2.8P下回った。負債額別にみると、負債5,000万円未満の倒産は451件で、構成比は52.8%と過半数を占めている。資本金別では、個人経営と資本金1,000万円未満が487件、構成比は57.0%を占めている。憂慮されていた「金融円滑化法利用後倒産」は37件判明し、前年同月を15.6%上回った。1月までの累計倒産件数は653件に達している。景気D.Iは前月比2.3P増の38.0となり、2ヵ月連続で改善した。

円高による業績低迷を余儀なくされていた輸出産業は最近の円安傾向を歓迎し、製造業の景気D.Iも改善しているが、一方で、円安により燃料費の負担が増加する運輸業などの倒産が今後増えることが懸念される。

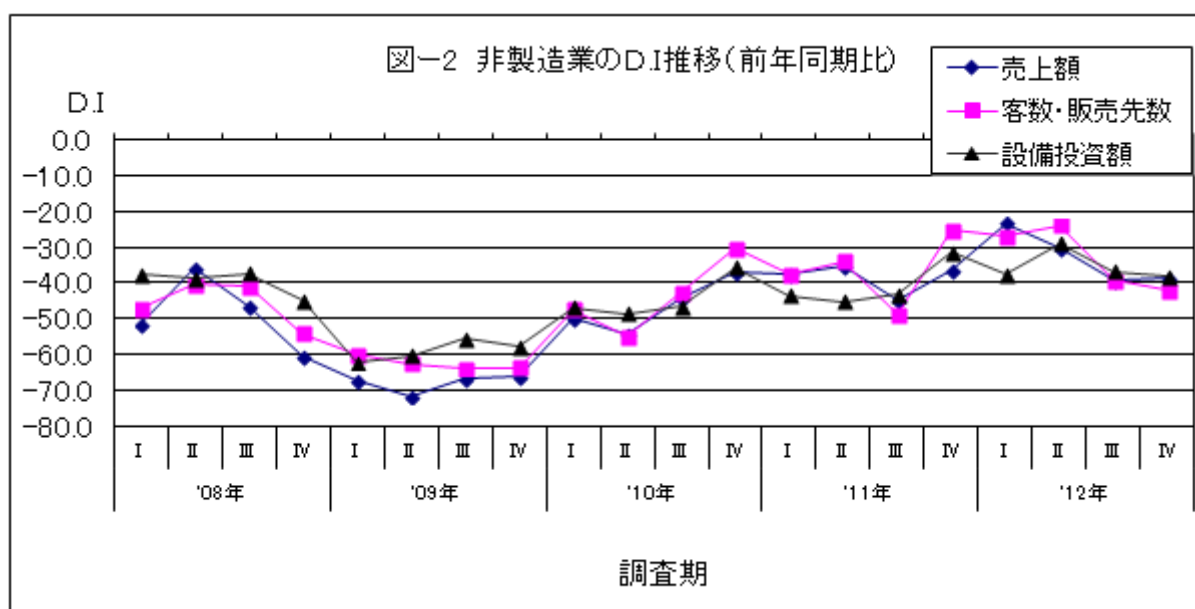
(注) 景気動向指標 (D. I = Diffusion Index)

= (増加・好転した企業の割合) - (減少・悪化した企業の割合)



2012年第4四半期(10~12月)の枚方市の、前期と比較した製造業の生産額、出荷額は、いずれもD.Iのマイナス幅が縮小している。製品在庫額は、適正企業が大多数を占めている。向こう3カ月の景況感は、D.Iのマイナス幅が縮小している。

前年同期比では、生産額のD.Iは僅かにマイナス幅が縮小している。製品販売価格、設備投資額のD.Iに大きな変化はない。



非製造業の、前期と比較した採算状況、資金繰りは、好転が増えて、D.Iのマイナス幅が縮小している。

前年同期と比較した売上額、客数・販売先数、設備投資額のD.Iは、いずれも大きな変化はない。

表3 総括表(DIの推移)

景気動向指標		'07年				'08年				'09年					
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV		
製 造 業	前期比	生産額	-7.4	-17.3	-17.4	-1.1	-26.9	-33.6	-33.0	-56.1	-70.8	-55.7	-27.8	-20.4	
		出荷額	-5.3	-14.4	-16.5	-1.1	-22.8	-28.0	-35.4	-58.8	-68.1	-58.5	-30.8	-19.6	
		製品在庫額	-6.6	-6.5	-12.8	-6.0	-12.5	-14.3	-9.7	-27.5	-23.3	-21.8	-19.6	-11.0	
	前期比	原材料仕入額	57.9	64.6	55.6	62.8	63.0	81.3	67.7	6.3	-17.0	-1.9	7.6	-2.8	
		製品販売価格	-4.3	5.3	0.0	8.0	4.3	3.8	1.0	-19.8	-38.4	-38.7	-27.4	-31.4	
		採算状況	-33.7	-33.7	-33.0	-48.3	-35.9	-54.2	-56.7	-63.2	-74.6	-63.6	-46.3	-31.5	
		資金繰り	-14.9	-6.2	-15.4	-25.0	-16.3	-27.1	-33.0	-37.2	-52.7	-45.3	-33.6	-28.0	
	前期比	受注状況	-10.5	-13.4	-27.2	-5.7	-23.7	-38.7	-43.3	-67.5	-79.8	-69.2	-34.3	-29.9	
		向こう3ヵ月の景況	-5.4	-4.1	-7.8	-24.4	-30.0	-34.3	-48.5	-77.0	-67.3	-38.3	-33.3	-30.6	
		前同期	生産額	1.1	-6.1	-18.5	-16.9	-26.1	-36.4	-34.0	-59.6	-80.5	-84.9	-72.9	-45.8
前期比	製品販売価格	1.1	12.6	-1.1	-1.1	7.7	4.7	2.1	-18.6	-47.3	-52.8	-46.7	-47.6		
	年比	設備投資額	7.9	10.6	-5.6	-5.9	-10.2	-19.2	-26.0	-43.2	-60.9	-64.1	-63.4	-46.6	
非 製 造 業	前期比	売上額	-20.2	-14.4	-22.6	-25.2	-42.2	-40.3	-38.4	-52.7	-66.7	-47.9	-57.9	-43.5	
		採算状況	-34.4	-30.3	-43.1	-46.9	-55.6	-57.0	-55.5	-66.4	-73.9	-60.0	-69.9	-54.4	
		資金繰り	-25.4	-18.0	-29.8	-30.6	-37.3	-38.9	-43.2	-44.3	-56.3	-46.2	-50.4	-40.6	
	前期比	向こう3ヵ月の景況	-26.0	-30.1	-34.1	-47.3	-54.1	-52.8	-60.0	-74.0	-67.4	-50.7	-51.9	-63.7	
		前同期	売上額	-18.1	-15.4	-35.5	-34.7	-51.5	-35.7	-46.5	-60.3	-67.4	-71.7	-66.7	-66.4
		前期比	客数・販売先数	-20.6	-19.8	-35.2	-29.7	-47.3	-40.4	-41.1	-54.3	-60.2	-62.7	-64.0	-63.7
	年比		設備投資額	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-37.4	-44.9	-62.2	-60.3	-55.5	-57.8

景気動向指標		'10年				'11年				'12年					
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV		
製 造 業	前期比	生産額	-21.0	-5.1	-12.4	-5.7	-3.2	-11.6	-2.4	-15.7	-16.1	-35.4	-40.2	-15.8	
		出荷額	-18.3	-5.0	-9.6	-10.5	-2.2	-16.5	-4.8	-15.0	-12.0	-38.8	-41.7	-16.0	
		製品在庫額	-17.0	-5.3	-3.0	-1.3	0.0	-14.1	-10.1	-11.5	-3.4	-7.3	-11.0	-1.1	
	前期比	原材料仕入額	19.2	32.3	18.3	32.6	37.4	39.8	35.7	19.5	28.3	9.3	-1.0	17.4	
		製品販売価格	-21.2	-23.5	-18.8	-20.9	-8.7	-8.5	-10.8	-12.2	-20.9	-10.3	-22.3	-20.4	
		採算状況	-38.1	-33.7	-32.4	-31.0	-23.4	-38.4	-30.6	-14.5	-31.5	-38.4	-36.7	-27.4	
		資金繰り	-27.9	-21.4	-24.3	-23.3	-10.8	-14.6	-19.3	-14.8	-19.8	-29.9	-16.7	-17.4	
	前期比	受注状況	-21.9	-10.9	-13.3	-14.9	-6.5	-17.6	-22.4	-22.9	-22.6	-36.1	-41.8	-28.4	
		向こう3ヵ月の景況	-30.5	-5.0	-28.8	-15.1	-43.6	-8.1	-20.5	-28.8	-18.7	-24.7	-37.5	-16.3	
		前同期	生産額	-13.3	-5.0	5.7	10.3	11.8	2.3	-9.4	-6.1	-19.4	-31.3	-34.7	-29.5
前期比	製品販売価格	-29.8	-12.1	-24.8	-24.4	-18.0	-7.2	-13.3	-6.2	-13.3	-9.3	-24.0	-28.0		
	年比	設備投資額	-29.0	-20.6	-20.2	-16.0	-16.7	-13.3	-25.0	-35.0	-20.9	-22.1	-22.7	-25.8	
非 製 造 業	前期比	売上額	-43.8	-45.7	-34.6	-24.8	-33.9	-29.4	-35.3	-24.3	-22.4	-30.6	-34.2	-33.9	
		採算状況	-54.4	-54.3	-51.1	-49.6	-46.0	-55.1	-56.7	-41.7	-34.8	-44.6	-48.2	-40.9	
		資金繰り	-41.5	-46.5	-40.9	-42.2	-38.2	-40.3	-47.5	-37.7	-26.1	-40.0	-37.8	-30.4	
	前期比	向こう3ヵ月の景況	-46.3	-45.5	-48.1	-38.6	-51.3	-40.5	-37.0	-40.0	-36.8	-46.6	-46.3	-38.9	
		前同期	売上額	-50.0	-54.4	-44.4	-37.0	-37.8	-35.6	-45.0	-36.3	-23.3	-30.3	-39.1	-38.9
		前期比	客数・販売先数	-47.5	-55.1	-42.7	-30.4	-37.6	-34.1	-48.9	-25.3	-27.2	-24.1	-39.2	-42.1
	年比		設備投資額	-47.0	-48.6	-46.5	-35.8	-43.5	-45.1	-43.1	-31.5	-37.7	-29.1	-36.8	-38.2

# 業種別の景気動向

## 1. 製造業の景気動向

### ①【生産額】

前期と比べた当期（2012年10～12月）の生産額は、増加25.3%、横這33.7%、減少41.1%となっている。総合D.Iはマイナス15.8Pである。

業種別にみると、食料・飲料、鉄鋼・非鉄金属は増加が増え、D.Iはマイナスからプラスへ転じている。繊維・衣服は減少が大勢を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。紙・出版・印刷は増加が半数を占め、D.Iのプラス幅が拡大している。化学・プラスチック、金属製品は増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。一般機械は減少が過半数を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。その他の製造業は、前期0の増加がみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。

前年同期比では、増加22.1%、横這26.3%、減少51.6%である。総合D.Iはマイナス29.5Pである。

業種別にみると、食料・飲料は増加が大勢を占め、D.Iのプラス幅が拡大している。木材・家具は増加と減少が拮抗している。紙・出版・印刷は増加が増え、D.Iは0からプラスになっている。化学・プラスチックは横這が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。金属製品は増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。一般機械は減少が大勢を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。電気機械は減少が半数を占めている。その他の製造業は前期0の増加がみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。

(表4)

表4. 生産額

業種	当期の生産額は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	件数	増加	横這	減少	D.I	
製造業	食料・飲料	4	50.0	25.0	25.0	25.0	4	75.0	25.0	0.0	75.0
	繊維・衣服	8	25.0	0.0	75.0	-50.0	8	25.0	12.5	62.5	-37.5
	木材・家具	2	0.0	50.0	50.0	-50.0	2	50.0	0.0	50.0	0.0
	紙・出版・印刷	8	50.0	37.5	12.5	37.5	8	25.0	62.5	12.5	12.5
	化学・プラスチック	17	23.5	47.1	29.4	-5.9	17	11.8	41.2	47.1	-35.3
	鉄鋼・非鉄金属	10	40.0	40.0	20.0	20.0	10	20.0	20.0	60.0	-40.0
	金属製品	15	20.0	20.0	60.0	-40.0	15	26.7	6.7	66.7	-40.0
	一般機械	12	8.3	33.3	58.3	-50.0	12	8.3	16.7	75.0	-66.7
	電気機械	8	25.0	25.0	50.0	-25.0	8	25.0	25.0	50.0	-25.0
	その他の製造業	11	18.2	54.5	27.3	-9.1	11	18.2	36.4	45.5	-27.3
	製造業計	95	25.3	33.7	41.1	-15.8	95	22.1	26.3	51.6	-29.5

## ②【出荷額】

当期の出荷額は、増加 23.4%、横這 37.2%、減少 39.4%となっている。総合 D.I はマイナス 16.0P である。

業種別では、食料・飲料は増加が増え、D.I がマイナスからプラスへ転じている。繊維・衣服は前期に引き続き、減少が 7 割以上を占めている。木材・家具は横這と減少が拮抗している。紙・出版・

印刷は増加が増え、D.I のプラス幅が拡大している。化学・プラスチックは増加が増え、D.I のマイナス幅が縮小している。鉄鋼・非鉄金属は増加が 4 割を占め、D.I はマイナスからプラスへ転じている。金属製品は減少が 6 割を占めている。一般機械は減少が過半数を占め、D.I のマイナス幅が拡大している。電気機械の D.I には、大きな変化はない。その他の製造業は、前期 0 の増加がみられ、D.I のマイナス幅が縮小している。

(表 5)

表5. 出荷額

業種	出荷額は					
	前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製造業	食料・飲料	4	50.0	25.0	25.0	25.0
	繊維・衣服	7	28.6	0.0	71.4	-42.9
	木材・家具	2	0.0	50.0	50.0	-50.0
	紙・出版・印刷	8	37.5	62.5	0.0	37.5
	化学・プラスチック	17	23.5	47.1	29.4	-5.9
	鉄鋼・非鉄金属	10	40.0	40.0	20.0	20.0
	金属製品	15	20.0	20.0	60.0	-40.0
	一般機械	12	0.0	41.7	58.3	-58.3
	電気機械	8	25.0	25.0	50.0	-25.0
	その他の製造業	11	18.2	54.5	27.3	-9.1
	製造業計	94	23.4	37.2	39.4	-16.0

## ③【製品在庫額】

前期と比べた製品在庫額は、不足 5.6%、適正 87.8%、過剰 6.7%である。総合 D.I はマイナス 1.1P となっている。適正水準の企業が大多数を占めている。

業種別にみると、食料・飲料、木材・家具、鉄鋼・非鉄金属、その他の製造業は、全ての企業が適正である。化学・

(表 6)

表6. 製品在庫額

業種	在庫額は					
	前期に比べ					
	件数	不足	適正	過剰	D.I	
製造業	食料・飲料	4	0.0	100.0	0.0	0.0
	繊維・衣服	6	33.3	50.0	16.7	16.7
	木材・家具	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	8	0.0	87.5	12.5	-12.5
	化学・プラスチック	17	5.9	94.1	0.0	5.9
	鉄鋼・非鉄金属	10	0.0	100.0	0.0	0.0
	金属製品	15	6.7	80.0	13.3	-6.7
	一般機械	11	0.0	81.8	18.2	-18.2
	電気機械	6	16.7	83.3	0.0	16.7
	その他の製造業	11	0.0	100.0	0.0	0.0
	製造業計	90	5.6	87.8	6.7	-1.1

プラスチックは、前期 0 の不足がみられる。一般機械は前期と変わらない。

#### ④【原材料仕入額】

前期と比べた原材料仕入額は、値上がり 21.7%、横這 73.9%、値下がり 4.3%である。総合 D.I はプラス 17.4P となっている。

業種別では、食料・飲料は値上がりと横這が拮抗している。繊維・衣服は値上がりが7割以上を占めている。紙・出版・印刷は横這が大勢を占めている。化学・プラスチック、金属製品、

一般機械は、横這が8割以上を占めている。鉄鋼・非鉄金属、電気機械は、前期0の値上がりがみられる。その他の製造業は、横這が9割を占めている。

(表7)

表7. 原材料仕入額

業 種	仕入額は前期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	4	50.0	50.0	0.0	50.0
	繊維・衣服	7	71.4	28.6	0.0	71.4
	木材・家具	2	50.0	50.0	0.0	50.0
	紙・出版・印刷	8	12.5	75.0	12.5	0.0
	化学・プラスチック	17	11.8	82.4	5.9	5.9
	鉄鋼・非鉄金属	10	40.0	50.0	10.0	30.0
	金属製品	15	13.3	86.7	0.0	13.3
	一般機械	11	9.1	81.8	9.1	0.0
	電気機械	8	12.5	87.5	0.0	12.5
	その他の製造業	10	10.0	90.0	0.0	10.0
製造業計	92	21.7	73.9	4.3	17.4	

#### ⑤【製品販売価格】

前期と比べた製品販売価格は、値上がり 1.1%、横這 77.4%、値下がり 21.5%となっている。総合 D.I はマイナス 20.4P である。

業種別では、値上がりが1業種にみられる一方、値下がり9業種にみられる。食料・飲料は全ての企業が横這である。木材・家具、電気機械は横這と値下がりが拮抗している。鉄鋼・非鉄金属は前期0の値上がりがみられる。

前年同期比では、値上がり 3.2%、横這 65.6%、値下がり 31.2%となっている。総合 D.I はマイナス 28.0P である。

(表8)

表8. 製品販売価格

業 種	当期の販売価格は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	4	0.0	100.0	0.0	0.0	4	25.0	75.0	0.0	25.0
	繊維・衣服	6	0.0	83.3	16.7	-16.7	6	0.0	50.0	50.0	-50.0
	木材・家具	2	0.0	50.0	50.0	-50.0	2	0.0	50.0	50.0	-50.0
	紙・出版・印刷	8	0.0	75.0	25.0	-25.0	8	0.0	75.0	25.0	-25.0
	化学・プラスチック	17	0.0	94.1	5.9	-5.9	17	0.0	94.1	5.9	-5.9
	鉄鋼・非鉄金属	10	10.0	60.0	30.0	-20.0	10	10.0	20.0	70.0	-60.0
	金属製品	15	0.0	93.3	6.7	-6.7	15	6.7	86.7	6.7	0.0
	一般機械	12	0.0	75.0	25.0	-25.0	12	0.0	66.7	33.3	-33.3
	電気機械	8	0.0	50.0	50.0	-50.0	8	0.0	37.5	62.5	-62.5
	その他の製造業	11	0.0	63.6	36.4	-36.4	11	0.0	54.5	45.5	-45.5
製造業計	93	1.1	77.4	21.5	-20.4	93	3.2	65.6	31.2	-28.0	



## ⑥【採算状況】

前期と比べた採算状況は、好転 10.5%、横這 51.6%、悪化 37.9%となっている。総合 D.I はマイナス 27.4P である。

業種別では、食料・飲料は横這が大勢を占めている。繊維・衣服は横這が半数を占め、D.I のマイナス幅が縮小している。木材・家具は全ての企業が悪化している。紙・出版

表9. 採算状況

業 種	採算状況は 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造 業	食料・飲料	4	25.0	75.0	0.0	25.0
	繊維・衣服	8	12.5	50.0	37.5	-25.0
	木材・家具	2	0.0	0.0	100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	8	0.0	87.5	12.5	-12.5
	化学・プラスチック	17	17.6	70.6	11.8	5.9
	鉄鋼・非鉄金属	10	10.0	40.0	50.0	-40.0
	金属製品	15	6.7	46.7	46.7	-40.0
	一般機械	12	8.3	33.3	58.3	-50.0
	電気機械	8	25.0	12.5	62.5	-37.5
	その他の製造業	11	0.0	63.6	36.4	-36.4
製造業計	95	10.5	51.6	37.9	-27.4	

・印刷は横這が大多数を占めている。化学・プラスチックは D.I がマイナスからプラスへ転じている。鉄鋼・非鉄金属は悪化が半数を占めるものの、D.I のマイナス幅は縮小している。金属製品、その他の製造業は、横這が増えて D.I のマイナス幅が縮小している。一般機械は悪化が過半数を占め、D.I のマイナス幅が拡大している。

(表 9)

## ⑦【資金繰り】

前期と比べた当期の資金繰りは、好転 8.7%、横這 65.2%、悪化 26.1%となっている。総合 D.I はマイナス 17.4P である。

業種別では、食料・飲料は横這が大勢を占めている。繊維・衣服は、横這が増えて D.I のマイナス幅が縮小している。木材・家具は好転と悪化が拮抗している。紙・出版・印刷、化学・プラスチック

表10. 資金繰り

業 種	資金繰りは 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造 業	食料・飲料	4	25.0	75.0	0.0	25.0
	繊維・衣服	7	14.3	42.9	42.9	-28.6
	木材・家具	2	50.0	0.0	50.0	0.0
	紙・出版・印刷	8	0.0	87.5	12.5	-12.5
	化学・プラスチック	16	6.3	87.5	6.3	0.0
	鉄鋼・非鉄金属	9	11.1	55.6	33.3	-22.2
	金属製品	15	13.3	73.3	13.3	0.0
	一般機械	12	0.0	58.3	41.7	-41.7
	電気機械	8	12.5	37.5	50.0	-37.5
	その他の製造業	11	0.0	63.6	36.4	-36.4
製造業計	92	8.7	65.2	26.1	-17.4	

は、横這が大多数を占めている。鉄鋼・非鉄金属は前期 0 の好転がみられる。一般機械、電気機械は悪化が増えて、D.I が 0 からマイナスになっている。

(表 10)

## ⑧【受注状況】

前期と比べた当期の受注状況は、増加 16.8%、横這 37.9%、減少 45.3%である。総合 D.I はマイナス 28.4P である。

業種別では、食料・飲料は増加が半数を占めている。木材・家具は、横這と減少が拮抗している。紙・出版・印刷は前期に引き続き D.I がプラスとなっている。化学・プラスチック、鉄鋼・非鉄金属、

金属製品、その他の製造業は、前期 0 の増加がみられ、D.I のマイナス幅が縮小している。一般機械、電気機械は減少が増え、D.I のマイナス幅が拡大している。

(表 1 1)

表11. 受注状況

業 種	受注状況は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	4	50.0	25.0	25.0	25.0
	繊維・衣服	8	12.5	25.0	62.5	-50.0
	木材・家具	2	0.0	50.0	50.0	-50.0
	紙・出版・印刷	8	25.0	75.0	0.0	25.0
	化学・プラスチック	17	23.5	47.1	29.4	-5.9
	鉄鋼・非鉄金属	10	20.0	20.0	60.0	-40.0
	金属製品	15	13.3	33.3	53.3	-40.0
	一般機械	12	0.0	33.3	66.7	-66.7
	電気機械	8	25.0	12.5	62.5	-37.5
	その他の製造業	11	9.1	54.5	36.4	-27.3
製造業計	95	16.8	37.9	45.3	-28.4	

## ⑨【設備投資額】

前年同期と比べた当期の設備投資額は、増加 6.5%、横這 61.3%、減少 32.3%である。総合 D.I はマイナス 25.8P である。

業種別では、食料・飲料は横這が大勢を占めている。繊維・衣服は減少が増えて、D.I のマイナス幅が拡大している。木材・家具、紙・出版・印刷は、全ての企業が横這である。鉄鋼・非鉄金属、金属製品は、横這が 6 割を占め、D.I のマイナス幅が縮小している。一般機械、その他の製造業は、横這と減少が拮抗している。

(表 1 2)

表12. 設備投資額

業 種	設備投資額は 前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	4	0.0	75.0	25.0	-25.0
	繊維・衣服	7	0.0	57.1	42.9	-42.9
	木材・家具	2	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	8	0.0	100.0	0.0	0.0
	化学・プラスチック	17	17.6	64.7	17.6	0.0
	鉄鋼・非鉄金属	10	10.0	60.0	30.0	-20.0
	金属製品	15	6.7	60.0	33.3	-26.7
	一般機械	12	0.0	50.0	50.0	-50.0
	電気機械	8	12.5	37.5	50.0	-37.5
	その他の製造業	10	0.0	50.0	50.0	-50.0
製造業計	93	6.5	61.3	32.3	-25.8	

⑩【向こう3ヵ月の景況】

来期の景気見通しは、好転17.4%、横這48.9%、悪化33.7%となっている。総合D.Iはマイナス16.3Pである。

業種別では、繊維・衣服は好転が増えて、D.Iはマイナスからプラスになっている。木材・家具、その他の製造業は、横這と悪化が拮抗している。化学・プラスチックは横

這が過半数を占めている。鉄鋼・非鉄金属、電気機械は悪化が半数を占めるものの、好転が増えてD.Iのマイナス幅は縮小している。金属製品は、前期0の好転がみられる。一般機械は横這が半数を占めている。

(表13)

表13. 向こう3ヵ月の景況

業種	向こう3ヵ月の景況				
	件数	好転	横這	悪化	D.I
食料・飲料	4	25.0	50.0	25.0	0.0
繊維・衣服	8	37.5	50.0	12.5	25.0
木材・家具	2	0.0	50.0	50.0	-50.0
紙・出版・印刷	8	12.5	62.5	25.0	-12.5
化学・プラスチック	17	11.8	52.9	35.3	-23.5
鉄鋼・非鉄金属	10	20.0	30.0	50.0	-30.0
金属製品	15	13.3	60.0	26.7	-13.3
一般機械	12	25.0	50.0	25.0	0.0
電気機械	8	25.0	25.0	50.0	-25.0
その他の製造業	8	0.0	50.0	50.0	-50.0
製造業計	92	17.4	48.9	33.7	-16.3

## 2. 建設業の景気動向

建設業の売上額は、増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。資材仕入価格と労務費は、前期に引き続き、横這が8割以上を占めている。

工事引合件数は、増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。受注単価は前期0の値上がりが見られ、D.Iのマイナス幅が縮小している。

採算状況は前期0の好転が少数みられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。資金繰りは、横這が過半数を占めている。受注状況は、増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。

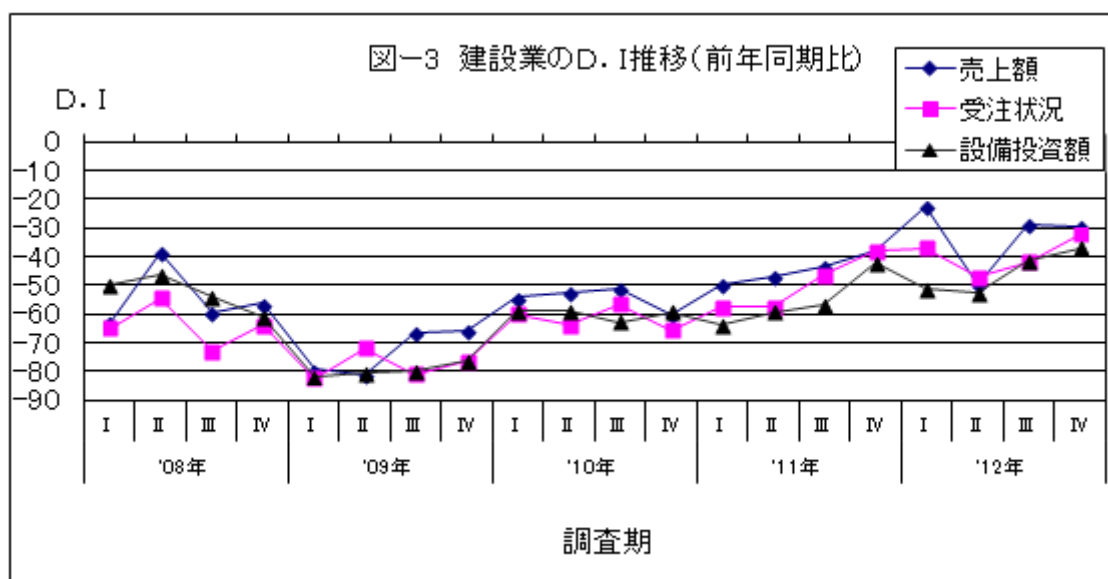
向こう3ヵ月の景況感は、前期0の好転がみられる。

前年同期比では、売上額のD.Iに大きな変化はない。受注状況は増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。設備投資額は、横這が過半数を占めている。

(表14、図3)

表14. 建設業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	37	16.2	35.1	48.6	-32.4
	資材仕入価格	37	18.9	81.1	0.0	18.9
	労務費	37	10.8	86.5	2.7	8.1
	工事引合件数	36	13.9	38.9	47.2	-33.3
	受注単価	37	5.4	51.4	43.2	-37.8
	採算状況	37	2.7	48.6	48.6	-45.9
	資金繰り	37	5.4	54.1	40.5	-35.1
前年同期比	受注状況	36	16.7	36.1	47.2	-30.6
	向こう3ヵ月の景況	36	2.8	50.0	47.2	-44.4
	売上額	37	18.9	32.4	48.6	-29.7
前期年比	受注状況	37	16.2	35.1	48.6	-32.4
	設備投資額	35	5.7	51.4	42.9	-37.1



### 3. 卸売業の景気動向

卸売業の売上額は増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。販売先数と客単価は、横這と減少が拮抗している。

商品仕入価格は、横這が過半数を占めるものの、値上がりが増えて、D.Iはマイナスからプラスへ転じている。商品在庫は適正が大勢を占めている。商品販売価格は、横這が過半数を占めている。

採算状況と荒利益率は、前期0の好転がみられる。資金繰りは9割以上が横這である。

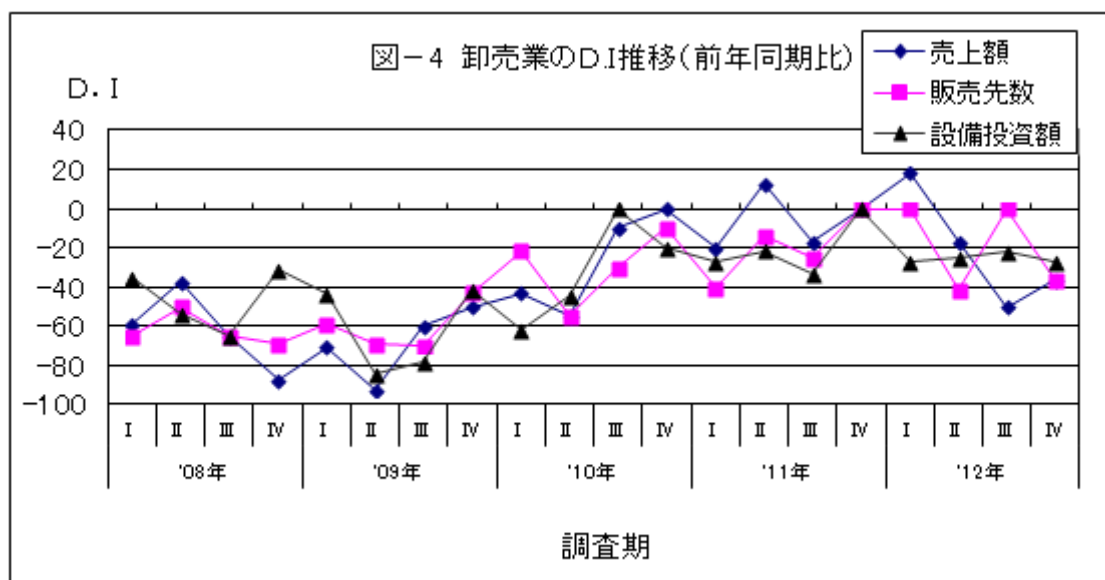
向こう3ヵ月の景況感は、前期0の好転見通しがみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。

前年同期比では、売上額は前期0の増加がみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。販売先数は減少が増え、D.Iは0からマイナスになっている。設備投資額のD.Iには回復がみられない。

(表15、図4)

表15. 卸売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	12	25.0	25.0	50.0	-25.0
	販売先数	12	0.0	50.0	50.0	-50.0
	客単価	12	0.0	50.0	50.0	-50.0
	商品仕入価格	11	27.3	54.5	18.2	9.1
	商品在庫	12	0.0	75.0	25.0	-25.0
	商品販売価格	11	0.0	54.5	45.5	-45.5
	採算状況	12	8.3	58.3	33.3	-25.0
	資金繰り	12	8.3	91.7	0.0	8.3
	荒利益率	12	16.7	50.0	33.3	-16.7
	向こう3ヵ月の景況	11	18.2	36.4	45.5	-27.3
前年同期比	売上額	11	18.2	27.3	54.5	-36.4
	販売先数	11	9.1	45.5	45.5	-36.4
	設備投資額	11	18.2	36.4	45.5	-27.3



#### 4. 小売業の景気動向

小売業の売上額と客数は、減少が7割以上を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。客単価は減少が6割以上を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。

商品仕入価格は、横這が6割以上を占めている。商品在庫は適正が過半数を占めるものの、やや過剰傾向がみられる。商品販売価格は前期0の値上がりが見られる。

採算状況は悪化が7割以上を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。資金繰りは、回復がみられない。荒利益率は、前期に引き続き横這が半数以上を占めている。

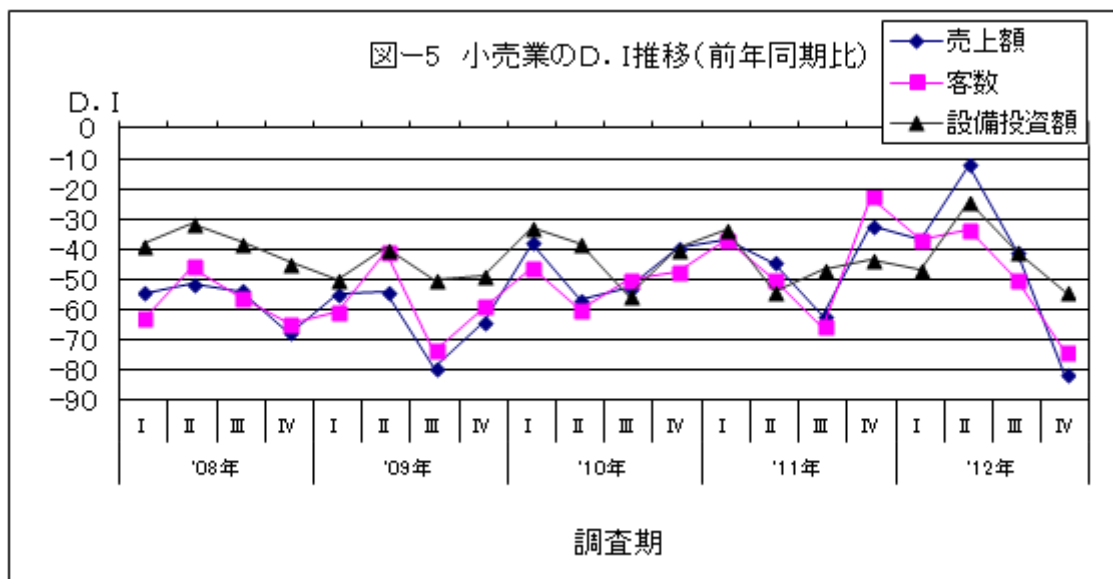
向こう3ヵ月の景況感は、好転見通しは依然として少数である。

前年同期比では、売上額、客数は減少が大多数を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。設備投資額は減少が過半数を占め、D.Iが後退している。

(表16、図5)

表16. 小売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	27	3.7	25.9	70.4	-66.7
	客数	27	3.7	18.5	77.8	-74.1
	客単価	27	0.0	37.0	63.0	-63.0
	商品仕入価格	27	14.8	63.0	22.2	-7.4
	商品在庫	27	3.7	55.6	40.7	-37.0
	商品販売価格	27	7.4	51.9	40.7	-33.3
	採算状況	27	0.0	25.9	74.1	-74.1
	資金繰り	27	3.7	37.0	59.3	-55.6
	荒利益率	27	0.0	51.9	48.1	-48.1
	向こう3ヵ月の景況	27	7.4	40.7	51.9	-44.4
前年同期比	売上額	27	3.7	11.1	85.2	-81.5
	客数	27	11.1	3.7	85.2	-74.1
	設備投資額	26	0.0	46.2	53.8	-53.8



## 5. 飲食店の景気動向

飲食店の売上額は、前期0の増加がみられるものの、減少が大多数を占めている。客数は前期0の増加がみられ、D.Iのマイナス幅が縮小している。客単価は前期と変わらない。

採算状況と資金繰りは、横這が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。荒利益率は、悪化が大勢を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。

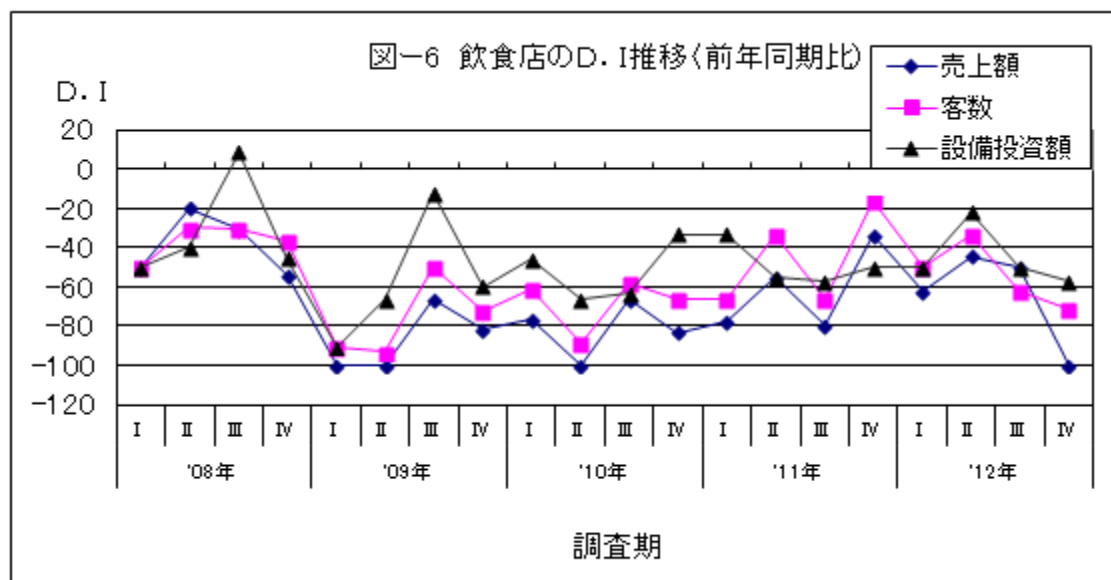
向こう3ヵ月の景況感は、横這と悪化が拮抗している。

前年同期比では、売上額は全ての企業が減少している。客数は減少が7割以上を占め、D.Iのマイナス幅が拡大している。設備投資額には、回復は見られない。

(表17、図6)

表17. 飲食店の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I
		不足	適正	過剰	
		値上	横這	値下	
		好転	横這	悪化	
前期	売上額	8	12.5	75.0	-62.5
	客数	8	12.5	37.5	-25.0
	客単価	8	0.0	62.5	-62.5
期比	採算状況	8	0.0	62.5	-62.5
	資金繰り	8	0.0	37.5	-37.5
	荒利益率	8	0.0	25.0	-75.0
	向こう3ヵ月の景況	8	0.0	50.0	-50.0
前年同期比	売上額	7	0.0	100.0	-100.0
	客数	7	0.0	28.6	-71.4
	設備投資額	7	0.0	42.9	-57.1



## 6. サービス業の景気動向

サービス業の売上額と客数は、増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。客単価は横這が6割以上を占めるものの、増加が増えてD.Iのマイナス幅が縮小している。

採算状況は、好転が増えてD.Iのマイナス幅が縮小している。資金繰りは横這が7割以上を占めている。荒利益率は好転が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。

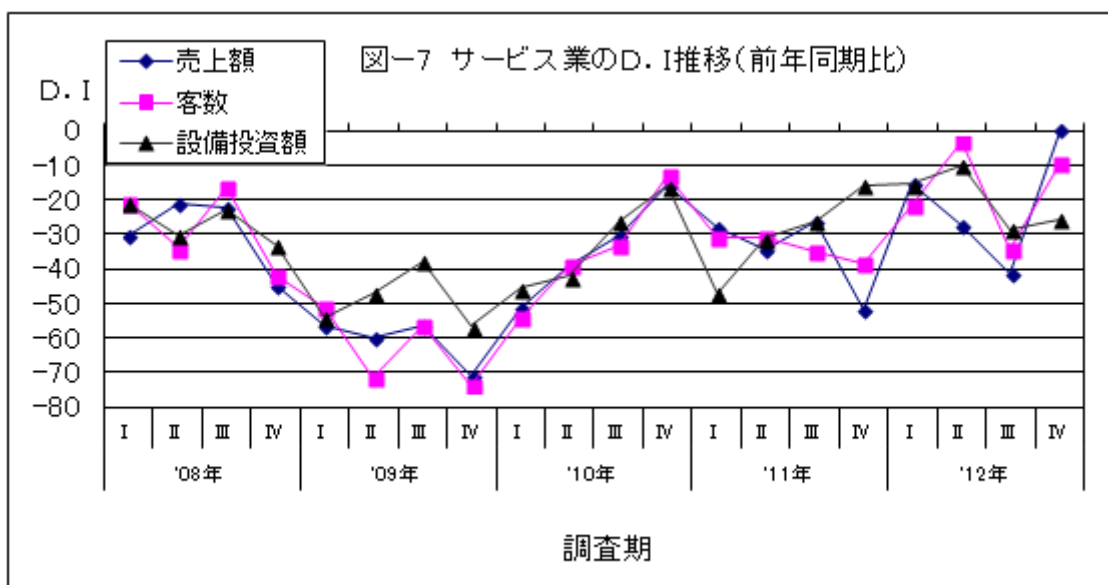
向こう3カ月の景況感は、横這が半数近くを占めている。

前年同期比では、売上額は増加が増え、D.Iはマイナスから0になっている。客数は増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。設備投資額には、大きな変化はない。

(表18、図7)

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	31	32.3	32.3	35.5	-3.2
	客数	31	22.6	45.2	32.3	-9.7
	客単価	31	12.9	61.3	25.8	-12.9
	採算状況	31	19.4	54.8	25.8	-6.5
	資金繰り	31	6.5	71.0	22.6	-16.1
	荒利益率	31	12.9	61.3	25.8	-12.9
前年同期比	向こう3カ月の景況	31	12.9	45.2	41.9	-29.0
	売上額	31	29.0	41.9	29.0	0.0
	客数	31	22.6	45.2	32.3	-9.7
設備投資額	31	9.7	54.8	35.5	-25.8	



### 枚方市の当期の特徴

- ・ 製造業は、前期と比べて、生産額、出荷額が増加している。製品販売価格は引き続き横這が大勢を占めている。今後の見通しについては、横這が増えている。
- ・ 非製造業の前年同期比では、小売業、飲食店はD.Iが後退している。サービス業のD.Iには回復がみられる。



自由意見

業種名	規模	自由意見
衣服・その他繊維 製造業	A	世の中（日本）金利が下がり株価が上がり、日本中の人 がこれで少しは気分的にも景気が良くなるように願います。
	C	従業員の高齢化は進み、経済状況は低下の一方である。市 場性の高い商品を製造しているため、何とかして経営を続 けているが、新入社員の入社申出があっても、資金繰りが 苦しいため雇用できないのが残念。
パルプ・紙・ 紙加工品製造業	B	経済動向には透明感を感じない。 今年は新政権に期待をかける。
	E	・自民党の3本の矢が折れないことを祈ります。 ・シロアリにかじられないように。
プラスチック製品 製造業	G	1～3月は10～12月に比して閉塞感がある。しかしなが ら政権交代後の経済情勢・金融関係の刺激がどれぐらい影 響が出るのか？少しの期待感を持つ。
		車業界の海外シフトや部品の輸入増加により、受注が大幅 減少。新規開拓の遅れが課題である。
非鉄金属製造業	C	全てに悪い。先の見通し0またはマイナス。国内閉鎖で海 外で存続するか、思案です。
一般機械器具 製造業	D	輸出に期待する。
	F	平成25年1～3月は少し上向きになるみたいだが、4月 以降が見えていない。
電気機械器具 製造業	E	いつまで続くかわからないが、今のところ順調。 円安、株高に期待。
	G	公共の予算投資を活発に。
輸送用機械器具	E	苦労した新用途の開拓によりようやく明るさが見えてきま した。
総合工事業	B	一般住宅の受注がなく、会社関係の工事で何とか。受注が 良くなるらない。
	C	本格的な木造建築の当社等は大手企業の住宅会社に押さ れ、昔ながらの得意先等本来の木の良さを見直す時期が来 るでしょうか。 仕事がない。
職別工事業	B	安い事は良い事か???
繊維・衣服等 卸売業	B	政権が移り、気分的にプラス思考になった。
飲食料品卸売業	E	当期の売上増は毎度の事ですが、当社の扱い商品の特徴と して、夏場より秋口～冬の時季の方が、売上は伸びます。
家具・建具・ じゅう器小売業	B	景気が良くなる…と信じて、コツコツ地道に、王道を進む のみ。
一般飲食店	C	何とか生き残れるか？
洗濯・理容・ 浴場業	D	実体経済を考慮して、政権には増税先送りをお願いした い。
娯楽業	D	寒い。夜のお客様が減少。
その他の事業 サービス業	F	楽観的なものは何一つない！！

規模区分    A = 1 ~ 3 人、B = 4 ~ 9 人、C = 10 ~ 19 人、D = 20 ~ 29 人、  
E = 30 ~ 49 人、F = 50 ~ 99 人、G = 100 人以上